

大阪府 阪南市

阪南市は大阪府の南部に位置し、和歌山市の中心部から約10kmの距離にあります。地勢的には、面積約36.10km²の市域を有し、そのうち約60%が和泉山脈の山林となっています。また、和泉山脈から流れ出る河川がつくった平野部に古くからの市街地が、高度経済成長期以降に開発された住宅地が和泉山脈裾野の丘陵部に広がっています。

温暖な気候や大阪湾に面した地勢を活かし、古くから、米やたまねぎなどの農業、タコツボ漁や底引き網漁、和泉砂岩の産出や石細工、瓦の製造が営まれており、近代以降には、綿作、綿織物の生産地として、

紋羽織という特色ある織物が作られ、その技術が繊維産業に活かされ、石綿・紡績の生産に引き継がれました。

毎年開催される秋祭りでは、海に神輿を担ぎ込んで禊する「神輿渡御」や、「やぐら」が波太神社の拝殿前の階段を駆け上がる「宮入」が行われ、阪南市を代表する文化的行事のひとつとなっています。

江戸時代には、尾崎村をはじめとして14か村が存在し、同時代に整備された浜（孝子越）街道や紀州（熊野）街道沿いは、今も昔の面影を残す街並みが見られます。



阪南市 海から山の景色



せんなん里海公園の夕景



組石山ハイキングコース（北展望台）

和歌山大学との連携（都市整備課）

人口減少・少子高齢化が進む本市では、阪南市立地適正計画を策定し、そのテーマである「歩いて暮らし、多世代が交流するコンパクトシティの実現」に向け、子育て世代と高齢者層をターゲットとして、市内の拠点となる駅周辺や公共施設・公共空間等を活用し、多様な世代が交流できるまちをめざしています。

特に和歌山大学システム工学部佐久間ゼミの皆さまとは、官学連携によるまちづくりとして、本市の中心核である尾崎駅周辺を舞台に、「まち歩きポストカード作成」「道路空間の活用」「駅前調査eスポーツ」などの調査や社会実験を、協働で取り組んで参りました。

2020年には地域連携協定を締結し、今後は大学と市全体で連携し、市は大学のフィールドワークの舞台の提供や学生活動の支援を、大学からは研究成果や学生による市内での活動による本市の活性化を促して頂き、対等で双方に利益のある良好な関係を築きます。まずは市の課題のひとつである中心市街地の活性化に取り組んで参ります。



伊東千尋和歌山大学長（左）と水野謙二阪南市長

阪南市との連携 佐久間ゼミより

和歌山大学システム工学部地域デザイン研究室（佐久間ゼミ）と京都産業大学経営学部佐々木ゼミで、まちあるきを行い地域資源の発見を行いました。地元の方にわかりやすく伝えるためにポスター形式で結果をまとめ、改装工事中の尾崎駅に掲示しました。

また、阪南市が大学のフィールドになる可能性があることをより広く周知するために、研究室と阪南市の取り組みをポスターにまとめ、南海和歌山大学前駅に掲示しました。

こうした活動を経て「地域連携協定」の締結に至りました。



地域資源発見のポスター



佐久間ゼミと阪南市の取り組みをまとめたポスター

「地域インターンシッププログラム (LIP)」受け入れ (まちの活力創造課)

まちの活力創造課では、観光学部で実施しているLIPの受け入れを行っています。

2018年度から2019年度は、学生が地域の事業者訪問やイベント参加を通して地場産物商品等の課題を洗い出し、事業者に向けて新商品のアイデアやパッケージ提案を発表しました。

2020年度からは、阪南市商工会が主体となり実施する「はんなん古代米プロジェクト」の活動に加わり、古代米を使った商品パッケージの提案、イベントやSNSでのプロモーション活動を実施しています。

LIPの活動により、学生が地域と交流し、新しい視点から提案をしてくれることで、地域の事業者もたくさんの気づきを与えられています。



はんなん産業フェア (左=第19回、右=第21回)

阪南市都市整備課・まちの活力創造課